

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年12月26日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100327		
法人名	株式会社 IMCライフステージ		
事業所名	IMCライフステージ グループホーム大原		
所在地	高知市大原町88-2		
自己評価作成日	平成23年10月28日	評価結果 市町村受理日	平成24年1月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の基本理念に沿って、入居者の個性や思いを尊重し、一人ひとりが自分のペースで自立した生活が営められるように支援している。また、地域の祭りなどの行事に参加したり、事業所内で開催しているいきいき体操にも参加するなど、地域との関係が深まるよう取り組んでいる。職員は入居者を人生の大先輩として敬い、心のこもった関わりを意識しながらケアに取り組むようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JGD=3990100327&amp;SCD=320&amp;PCD=39">http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JGD=3990100327&amp;SCD=320&amp;PCD=39</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年12月9日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、開設して3年目を迎え、地域交流ホールを地域に開放したり、いきいき百歳体操を通して地域住民と交流するほか、近隣住民や民生委員に運営推進会議のメンバーとして協力を得たり、公民館に事業所の地域新聞を掲示してもらうなどの関係を築くとともに、地域の夏祭りや一斉清掃に参加している。また、食事会などの行事に合わせて家族と懇談する機会を設けたり、面会時や随時の電話連絡などで意思疎通を図り、家族の協力を得て外出や馴染みの関係の継続など、共に支え合っていく関係を築いている。職員異動等も最近では落ち着いてきており、管理者を中心にフロア長やユニットリーダー、介護職員のチームワークを図りながら利用者の尊厳保持を第一に日々の支援に取り組んでいる。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: 大原 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念があり、職員の意識が高まるよう朝礼やフロア会を利用して話し合っている。職員は入居者一人ひとりに向き合い、その人らしい暮らしや笑顔を大切に支援している。	経営体の基本理念をもとに、事業所独自の理念を作成している。理念を毎朝復唱し、各ユニット単位で理念について話し合い、利用者を人生の先輩として敬い、言葉遣いに注意しながら日々実践している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや清掃活動に参加したり、地域交流ホールのいきいき体操を通じて地域の方との交流を深めている。また、地域向けの広報紙を発行したり、職員による地域交流委員会などで今後さらに地域とつながっていく取り組みなどを検討している。	散歩時に地域住民と挨拶を交わしたり、地域交流ホールを地域の囲碁サークルに提供したり、いきいき百歳体操を通して地域住民と交流している。また、地域の清掃活動に参加したり、地域新聞を公民館に掲示するなど、地域との関わりづくりに取り組んでいる。	マンションなどがある住宅地の中で地域との交流に取り組んでいるが、今一度、事業所周辺の地域資源を再確認し、地域に溶け込むきっかけを見出す取り組みを期待したい。
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やいきいき百歳体操を通して、認知症について理解してもらうようにしている。また、介護実習の受け入れもしている。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に開催し、事業所の活動状況等を報告し、各委員の意見を取り入れサービスの向上に活かしている。	事業所から運営状況や利用者の状況について報告したり、評価結果についても報告し、課題への対応なども含めて参加委員と意見交換をしている。同一建物内の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で会議を開催している。	議題の内容に応じて地域の関係者に参加を依頼したり、日頃の実践や自己評価などから予め議題を用意し、さらに運営推進会議の機能をサービスに活かしていく取り組みを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が開催する研修には積極的に参加するようにしている。また、運営推進会議やグループホーム連絡会を通して協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や市内南部地域のグループホーム連絡会を通して事業所の理解を得たり、制度の運用や利用者に関する意見交換をしている。また、研修情報など提供を受けるなど、日頃からの関係を築いている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会やフロア会を通して身体拘束をしないケアについて話し合い、職員の意識を高め拘束しないケアに取り組んでいる。	言葉による抑制などの事例をあげながら、内部で勉強会を行い、身体拘束に関する職員の理解を深め、拘束をしないケアを実践している。現在、外出傾向のある利用者はいないが、日中は玄関に施錠せず、自由に暮らせる環境の中で、職員間で連携しながら見守り支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修会に参加し、フロア会などで話し合い、虐待防止に取り組んでいる。	
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受け制度を理解している。現在、該当事例はないが、相談等に応じて支援していくようにしている。	
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項や契約書に基づき、リスク面なども含め説明し、理解を得ている。	
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時にはコミュニケーションを図るように努めている。また、必要時には電話で情報共有を図るとともに、家族会でも意見や要望等を出してもらい、職員間で共有し取り組んでいる。	食事会などの行事に合わせて家族会を開催したり、面会時や電話などで家族の意向を確認している。職員は気軽に何でも話してもらおう雰囲気づくりに配慮するとともに、歩行機能の維持や健康管理、清潔保持などの意見を受けて介護計画に反映させたり、日頃の対応につなげている。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会や6カ月毎の個別面談などで意見等を聞いている。また、日々の気づきなどを何時でも話し合う機会を設け、運営に反映させている。	ユニット毎のフロア会や申し送りなどの機会に職員の意見や提案を聞いており、休憩時間の取得や業務分担の見直し、シャワーチェアの購入など、管理者と検討したり、経営体に相談している。また、職員は入居検討会に参加するなど運営に加わっている。
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員との面談機会を設け、職員の勤務状況等を把握するとともに、やりがいを持てるようアドバイスしたり、職場環境などの整備に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や毎月の勉強会、新任者の定期研修を計画し、資質向上を図っている。また、日々の職員のケア内容を観察し、助言している。	
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通して交流を図ったり、定期的に法人内の事業所と研修する機会を持ちサービスの質の向上に取り組んでいる。	
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅など訪問し、心身の状況や生活状況などを把握するとともに、意向なども傾聴しながら信頼関係を築くように努めている。	
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前の面接や入居時に、入居者のこれまでの生活状況などの経緯や、家族の意向等を傾聴しながら関係づくりに努めている。	
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の意向などを基に、事業所のサービスや他のサービスも含めて検討している。	
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者を人生の先輩として敬い、意思を尊重しながら本人本位に共に暮らしていく関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切に、日々の生活の様子を面会時や電話などで伝え、家族の意向なども聞きながら共に支え合っていく関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て行き慣れた美容院を利用したり、知人の面会や電話など通して、これまで培ってきた関係を大切に支援している。	知人や親族の面会を受けたり、ドライブがてら利用者の自宅周辺や馴染みの場所に行っている。また、家族の協力を得て、自宅に帰ったり、墓参り、買物などに行くなど、これまでの暮らしが継続できるように支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事など通じて、入居者同士の関わりや支え合いにつながっている。また、職員が間に入り交流の手助けするなど、良い関係となるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も見舞いや訪問するなど、これまでの関係を大切しながら相談や支援をしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントを職員間で共有し、入居者との会話や行動などから希望や意向を把握している。困難な場合は、生活暦などから本人の立場に立って思いを汲み取るようにしている。	利用者の生活歴や好きなことなどを職員間で共有しながら、日常の会話や行動などから利用者の思いや希望を把握している。自分で思い等を表し難い場合は、家族に相談したり、表情等から思いを汲み上げるなど、利用者本位に検討している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、本人や家族から生活歴等について話を聞き、アセスメントシートで共有している。入居後も日々の関わりの中で情報を把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らし方や、心身の状態、できることなど、入居者一人ひとりの状況を総合的に把握している。	
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者がその人らしい生活が送られるように、本人、家族から要望を聞き、また、日々の観察を踏まえ職員による気づきなども聞きながら話し合い、介護計画を作成している。	毎月、ユニット毎のフロア会でケアの実践状況や職員の気づきなどを共有するとともに、3カ月毎の計画の見直し時に利用者、家族の意向を聞き、計画担当者を中心にカンファレンスを行い、個別支援を盛り込んだ介護計画を作成している。
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子や状態変化など、個人ケースや日誌に記録している。また、職員間で記録を共有し、日々のケアや介護計画の見直しにつなげている。	
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況に応じ、通院や買物など柔軟に対応している。	
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の地域代表者から地域の情報収集に努め、地域活動に参加するなど接点を見出し、入居者の生活を支え合う関係づくりに努めている。	
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。家族の付き添いを基本としているが、状況に応じて職員が柔軟に対応している。	利用者、家族の希望に応じたかかりつけ医で受診できるようにしている。往診を受ける場合もあるが、通院支援は家族対応を基本とし、状況に応じて職員が付き添う時もある。受診結果は、家族と相互に連絡したり、職員間は夕方のミーティングや記録により共有している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、看護連携マニュアルに基づき入居者の健康管理について介護職員と共有し、必要な支援をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には見舞いに行き、家族や病院関係者との情報交換や関係づくりに努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針に基づき、事業所で対応できる支援について説明し、家族から同意を得ている。本人や家族の意向に沿って納得した終末期を迎えられるよう支援していく体制はできている。	重度化や看取りの対応指針を入居時に説明し、同意を得ている。利用者の状態等に応じて家族や主治医、看護師と話し合いながら支援していく体制を整えている。医療機関で終末期を迎えた事例があり、事業所として対応できる支援をしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って急変時に対応できるようにしている。また、新人研修や勉強会などで急変時への対応など学ぶ機会を設けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って緊急連絡網を作成し、年に2回の避難訓練を実施している。また、運営推進会議を通じて災害時の協力を地域の方々にも呼びかけている。非常用食料も確保している。	消防署の指導を得て事業所の防災訓練を実施している。運営推進会議で防災対策について話し合うなど、関心も高まっているが、地域からの協力を得るまでには至っていない。前回評価結果を受けて非常用の食料等の準備をしている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から入居者を人生の先輩として敬い、意思を尊重した言葉かけを心がけている。また、日々の朝礼などで尊厳保持について確認している。	利用者を人生の先輩として敬い、排泄や入浴などのケアの場面で、利用者の人格やプライバシーを損ねない対応をしている。特に、言葉遣いについては日頃から気をつけるよう職員に周知している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重して、希望等を言ってもらったり、選んでもらうよう声かけするなど、自己決定してもらう場面づくりをしながら支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、生活の中で意向を把握しながら、できる限り希望に沿って過ごしてもらうよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に衣服を選んでもらったり、その人らしいおしゃれや身だしなみができるように家族の協力も得ている。また、化粧品などを買いいにかける方もいる。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は外注の栄養士に依頼している。月に何回かは職員が入居者に、好みの食事を聞き、季節の料理を提供するようにしている。利用者は準備や片付けなどできることを職員と一緒にしている。	献立や食材調達は業者に委託しているが、利用者の嗜好などを伝えるとともに、行事食などは利用者の希望を汲み上げ、食材の買い出しにも一緒に出かけている。また、利用者は盛り付けや片づけなどできる範囲で役割を担い、干し柿づくりなど通して職員との関係づくりにつなげている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせ、栄養、水分が偏らないようチェック表を用いて把握している。また、本人の体調や生活パターンに応じて食事の時間など柔軟に対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に応じて、声かけや介助するなどして口腔ケアを行い、清潔保持をしている。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を観ながら、できる限だけトイレで排泄できるよう個々の状態に応じて対応している。	利用者毎の排泄パターンを把握し、日中はトイレで排泄するよう声かけなどの支援をしている。排泄が自立している利用者が多いが、夜間は大きめのパッドを使用するなど、個々に応じて支援している。



自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷たい牛乳など入居者に応じて水分補給の工夫をしたり、散歩や体操など運動を取り入れ、便秘の予防に取り組んでいる。	
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り希望に沿って入浴支援をしている。拒否がある入居者には、タイミングや声のかけ方など工夫して入浴できるようにしている。	利用者の希望に沿って入浴支援をしている。16時から18時頃の時間帯が多いが、それ以外の時間帯でも柔軟に対応できる体制を整えており、概ね2日に1回は入浴している。入浴を嫌がる利用者もいるが、声かけの工夫などをしながら、3日に1回は入浴できるよう支援している。
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり安眠できるよう日中の運動や役割などを担ってもらうようにしている。また、体調に応じて日中に休む時間を作るなど柔軟に対応している。	
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日誌など使って服薬の用法など職員間で情報を共有している。また、服薬前に服薬の心得を読んだり、2人の職員で服薬状況を確認しながら支援している。	
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や散歩、歌や家事など、役割や趣味、楽しみを把握し、職員も関わりながらその人らしく過ごしてもらうように支援している。	
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に少人数で散歩や買い物には出かけている。入居者の意向を聞きながら外出する機会をつくったり、家族の協力を得て住み慣れた地域へ出かけたたりしている。	利用者の希望に沿って事業所周辺の散歩や、近くのコンビニエンスストア、量販店などに買い物に出かけている。また、気分転換にドライブしたり、季節の花見や催しに出かけるなど、利用者の意向を汲みあげながら支援している。車椅子の利用者も一緒に出かけている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て事業所でお金を預かり、移動販売やコンビニエンスストアや量販店などの買物の際に、支払ってもらうよう見守りながら支援している。	
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話をかけたい希望に沿って電話してもらうように支援している。また、携帯電話を持っている方もいる。	
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに季節の花を飾ったり、職員の声のトーンに気をつけたり、光や温度の調整など、居心地よく過ごせるよう工夫している。	建物玄関や各階のユニットの玄関はバリアフリーが行き届いており、鉢植えを置くなど、落ち着いたある雰囲気がある。また、各ユニットの食堂兼居間は採光も良く、利用者、職員と一緒に手作りで季節の飾り付けをしたり、ソファでくつろいだり、地域交流ホールでいきいき百歳体操をするなど、思い思いに過ごせる空間がある。
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置くなど、入居者の居場所づくりに配慮し、独りで過ごしたり、仲の良い者同士で思い思いに過ごせるようにしている。	
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に、使い慣れたものや馴染みのものを持参してもらうよう依頼し、落ち着いて過ごしてもらうように工夫している。	居室には洗面台や洋服ダンスが備え付けで、ベッドや整理ダンス、椅子や机、テレビのほか、刺繍作品や家族写真、化粧品などの身の回り品など馴染みの品物を持ち込むとともに、絨毯を敷いたり、畳敷きにするなど、それぞれ居心地よく過ごせるように工夫している。
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室、廊下などバリアフリー構造に配慮するとともに、廊下やトイレなどに手すりを設置し、一人ひとりの状態に合わせ自立した生活が送れるように工夫している。	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: 大原 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念があり、職員全体で理念の意味や考え方を統一できるようフロア会やミーティングなどで話し合い理解を深めている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや清掃活動に参加したり、地域交流ホールのいきいき体操を通じて地域の方との交流を深めている。また、地域向けの広報紙を発行したり、職員による地域交流委員会などで今後さらに地域とつながっていく取り組みなどを検討している。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やいきいき百歳体操を通して、認知症について理解してもらうようにしている。また、介護実習の受け入れもしている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に開催し、事業所の活動状況等を報告し、各委員の意見を取り入れサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡会を通して協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会やフロア会を通して身体拘束をしないケアについて話し合い、職員の意識を高め拘束しないケアに取り組んでいる。また、夜間帯以外は玄関の施錠はしていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修会に参加し、フロア会などで話し合い、虐待防止に取り組んでいる。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受け制度を理解している。現在、該当事例はないが、相談等に応じて支援していくようにしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項や契約書に基づき、リスク面なども含め説明し、理解を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時にはコミュニケーションを図るように努めている。また、必要時には電話で情報共有を図るとともに、家族会でも意見や要望等を出してもらい、職員間で共有し取り組んでいる。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会や6カ月毎の個別面談などで意見等を聞いている。また、日々の気づきなどを何時でも話し合う機会を設け、運営に反映させている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員との面談機会を設け、職員の勤務状況等を把握するとともに、やりがいを持てるようアドバイスしたり、職場環境などの整備に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や毎月の勉強会、新任者の定期研修を計画し、資質向上を図っている。また、日々の職員のケア内容を観察し、助言している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通して交流を図ったり、定期的に法人内の事業所と研修する機会を持ちサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅など訪問し、心身の状況や生活状況などを把握するとともに、意向なども傾聴しながら信頼関係を築くように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前の面接や入居時に、入居者のこれまでの生活状況などの経緯や、家族の意向等を傾聴しながら関係づくりに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の意向などを基に、事業所のサービスや他のサービスも含めて検討している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の意思を尊重し、本人の意向に沿って共に暮らしていく関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切に、日々の生活の様子を面会時や電話などで伝え、家族の意向なども聞きながら共に支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て馴染みの関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事など通じて、入居者同士の関わりや支え合いにつながっている。また、職員が間に入り交流の手助けするなど、良い関係となるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も見舞いや訪問するなど、これまでの関係を大切しながら相談や支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントを職員間で共有し、入居者との会話や行動などから希望や意向を把握している。困難な場合は、生活歴などから本人の立場に立って思いを汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、本人や家族から生活歴等について話を聞き、アセスメントシートで共有している。入居後も日々の関わりの中で情報を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らし方や、心身の状態、できることなど、入居者一人ひとりの状況を総合的に把握している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランの見直し時に合わせて本人、家族の意向を聞くとともに、日々の状態を観察し、職員間で話し合いながら介護計画を作成している。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子や状態変化など、個人ケースや日誌に記録している。また、職員間で記録を共有し、日々のケアや介護計画の見直しにつなげている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況に応じ、通院や買物など柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の地域代表者から地域の情報収集に努め、地域活動に参加するなど接点を見出し、入居者の生活を支え合う関係づくりに努めている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。家族の付き添いを基本としているが、状況に応じて職員が柔軟に対応している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、看護連携マニュアルに基づき入居者の健康管理について介護職員と共有し、必要な支援をしている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には見舞いに行き、家族や病院関係者との情報交換や関係づくりに努めている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針に基づき、事業所でも対応できる支援について説明し、家族から同意を得ている。本人や家族の意向に沿って納得した終末期を迎えられるよう支援していく体制はできている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って急変時に対応できるようにしている。また、新人研修や勉強会などで急変時への対応など学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って緊急連絡網を作成し、年に2回の避難訓練を実施している。また、運営推進会議を通じて災害時の協力を地域の方々にも呼びかけている。非常用食料も確保している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から入居者を人生の先輩として敬い、意思を尊重した言葉かけを心がけている。また、日々の朝礼などで尊厳保持について確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重して、希望等をもってもらったり、選んでもらうよう声かけするなど、自己決定してもらう場づくりをしながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大事にし、談笑するなどゆっくり過ごせる時間をつくり、入居者一人ひとりが自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれができるよう、衣装選びなどできるだけ自己決定する場面を作りながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は外注の栄養士に依頼している。食事の準備や片づけなど、入居者と職員と一緒にしている。また、入居者の好みの食べ物を献立に入れるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせて、栄養、水分が偏らないようチェック表を用いて把握している。また、水分補給をこまめに行い、水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に応じて、声かけや介助するなどして口腔ケアを行い、清潔保持をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を観ながら、できる限だけトイレで排泄できるよう個々の状態に応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や栄養管理の工夫、体操や歩行など運動の機会を確保するとともに、水分摂取に配慮するなど、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望をできるだけ尊重し、曜日や時間帯を決めずに柔軟に対応している。拒否がある方には、状態を観察し、タイミングを図りながら対応している。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動できるように配慮したり、一人ひとりの生活ペースや体調に応じて休息してもらうなど、安心して眠れるように支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日誌など使って服薬の用法など職員間で情報を共有している。また、服薬前に服薬の心得を読んだり、2人の職員で服薬状況を確認しながら支援している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好むことを念頭に置き、入居者と関わる中で楽しみを見つけたり、興味を持てる話題を作るなど、雰囲気を大切にしながら支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者と関わる中で希望を把握し、散歩や買物に出かけたり、ドライブするなど、外気に触れる機会を作るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望で財布を自分で管理している事例もある。買物時には見守りなどの支援をしている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から電話の希望があれば取り次ぐなどの支援をしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の温度調整や光の調整など居心地の良い空間づくりに配慮している。また、フロアの掲示板に季節の写真や入居者と一緒に作った作品などを展示し、和みのある雰囲気となるよう工夫している。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置くなど、入居者の居場所づくりに配慮し、独りで過ごしたり、仲の良い者同士で思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使い慣れた馴染みの物を持って来てもらうよう家族に依頼し、住み慣れた生活環境の継続性に配慮している。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室、廊下などバリアフリー構造に配慮するとともに、廊下やトイレなどに手すりを設置し、一人ひとりの状態に合わせて自立した生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない